

令和8年産

大崎稲作情報 第6号

令和8年7月22日発行

宮城県米づくり推進大崎地方本部

大崎農業改良普及センター

TEL: 0229-91-0726 FAX: 0229-23-0910

<https://www.pref.miyagi.jp/site/osnokai/>

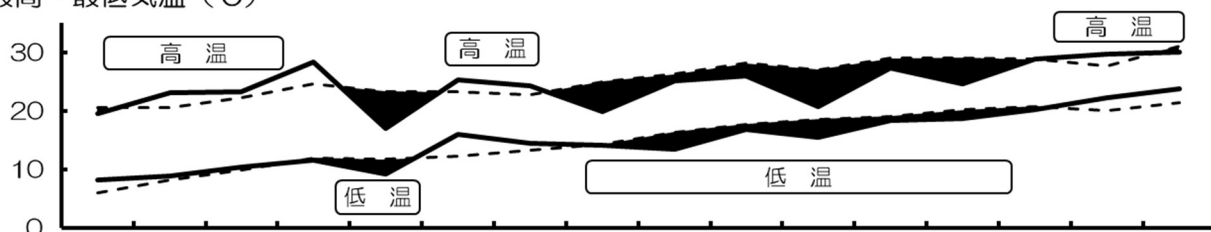
今後の管理のポイント

- ・ **出穂期が早まる見込み**です。遅れずに適期管理をしましょう。
- ・ 斑点米カメムシ類の発生量が多い見込みですので適期防除を徹底しましょう。
- ・ 高温対策と節水を兼ねた飽水管理を実施しましょう。

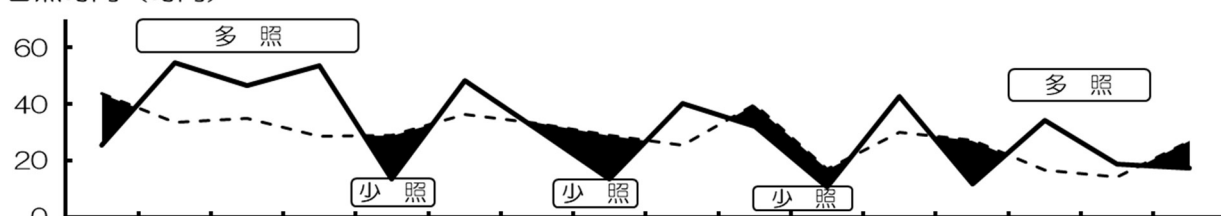
1 気象経過（前5か年間平均値との比較）

過去5か年と比較して6月は低めに推移しましたが、7月第2半旬以降は高温で推移しています。7月12日に多雨がありましたが、6月第6半旬以降は降水量が比較的少なく推移し、日照時間が多くなりました。今後2週間も高温の傾向が続くとされています。

最高・最低気温（℃）



日照時間（時間）



降水量（mm）

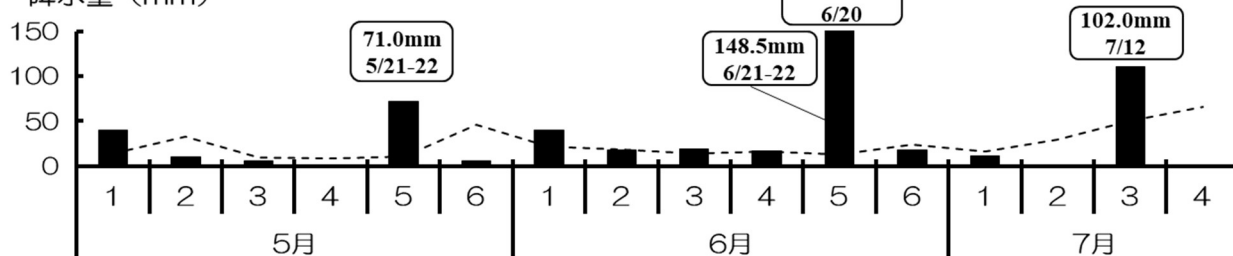


図1 5～7月の気象（古川アメダス）※前5か年平均値との比較。

2 生育概況（7月21日現在）

7月第2半旬以降から高温多照傾向で推移したため、平年と比べて抑えられていた生育が回復し始め、移植栽培では茎数・草丈は平年並みとなりました。葉色は平年をやや上回っており、高温により、地力窒素の発現が遅れて出てきたものと考えられます。幼穂も平年に比べ大幅に生長しています。このまま高温多照傾向が続けば、7月末ごろに出穂期を迎えることが予想されます。

乾田直播栽培では、草丈が前年を上回っているほ場も見られますが、生育は全体的に移植栽培と比べて抑えめです。ほ場によっては、ほ場内の生育ムラや用水のかかり具合等により生育にばらつきも見受けられます。幼穂も確認されましたが、幼穂形成期には達していません。

表1 生育調査結果

栽培様式	品種名	地区名	前作	田植日 播種日 (平年・前年差)	7月21日					幼穂 形成期 (月/日) (平年差)	減数 分裂期 (月/日) (平年差)
					莖数 本/㎡ (平年・前年比)	草丈 cm (平年・前年比)	葉色 GM (平年・前年差)	生育量 莖数×草丈×葉色 (平年・前年差)	幼穂長 mm (平年差)		
移植	ひとめぼれ	大崎市三本木	水稻	5/5 (+1)	552 (104%)	83.4 (102%)	40.1 (+3.1)	18.5 (115%)	138.0 (+20.0)	7/5 (+2)	7/15 (+1)
	ササニシキ	大崎市古川	水稻	5/10 (+3)	465 (96%)	73.9 (96%)	39.2 (+2.2)	13.5 (96%)	138.8 (+55.8)	7/9 (+2)	7/18 (0)
	平均			5/7 (+2)	509 (100%)	78.7 (99%)	39.7 (+2.7)	16.0 (106%)	138.4 (+37.9)	7/7 (+2)	7/16 (+1)
乾田 直播	ササニシキ	大崎市古川	水稻	4/8 (-20)	353 (49%)	71.3 (115%)	33.7 (+0.8)	8.5 (48%)	4.6 (+3.8)	- 7/20	- -
		大崎市三本木	水稻	4/13	428	71.7	37.0	11.3	11.6	7/9	-
	平均			4/10	390	71.5	35.4	9.9	8.1	-	-

※田植日の+は遅いことを、-は早いことを示す。乾田直播はいずれもグレーンドリル鎮圧方式による。

※平年比・差は前5か年（令和3～7年）の平均値との比較。

※生育量は莖数/㎡×草丈 cm×GM 値÷10万で求める指標で追肥判断等の目安となります。

※大崎市古川乾田直播は昨年度から計測したため、前年値との比較。大崎市三本木乾田直播は今年度から計測。乾田直播の平均は今年度のもの。

表2 生育ステージ予測（生育調査ほ）

品種	移植日	移植時	予測日			前年出穂期
		葉数	幼穂形成期	減数分裂期	出穂期	（実測値）
ササニシキ	5月10日	2.7	7月7日	7月17日	7月29日	7月28日
ひとめぼれ	5月5日	2.7	7月4日	7月14日	7月26日	7月27日

※幼穂形成期及び出穂期は「DVR 法」による予測であり、減数分裂期は幼穂形成期の10日後とした。気温は過去の気象データ検索（気象庁）により、7月21日までの実況値とその後14日間の予報値を使用した（古川アメダス）。表3も同様。

表3 生育ステージ予測（大崎普及センター管内）

田植日		予測日		
		幼穂形成期	減数分裂期	出穂期
田植始期	4月30日	7月1日	7月11日	7月24日
田植盛期	5月10日	7月7日	7月17日	7月28日
田植終期	5月23日	7月17日	7月27日	8月8日

※田植日は管内の田植状況調査の結果により定めたもの。

※本予測は中生品種（「ひとめぼれ」、「ササニシキ」等）が対象であり、「つや姫」等の晩生品種は該当しない。

3 追肥 **白未熟粒の発生を防ぐため、生育量を基に施用を判断**

基肥の窒素肥効が無くなり、籾数の不足や登熟不良が予測される場合は追肥によって生育調整を図りましょう。

表4 追肥の主な効果・影響（◎：効果高い、○：効果あり、×悪影響あり）

		穂数の増加	1穂穎花数の増加	1穂穎花数の減少防止	登熟の良化	下位節間の伸長と倒伏	玄米タンパク質の増加
施用時期	幼穂形成期	○	◎	○		×	
	減数分裂期		○	◎	◎		
	穂揃期				○		×

高温下では、籾数過多や登熟期の窒素栄養不足により白未熟粒の発生が助長されるので、ほ場ごとの地力に応じた適正な施肥管理に努め、必要に応じて適期に追肥を行いましょう。

※各品種の追肥量の目安、倒伏診断指標については稲作情報第4号を参照してください。

4 病虫害防除 **出穂予想に基づいて適期に実施**

表5 宮城県病虫害防除所による発生予察情報

病虫害名	発生予報
いもち病（葉いもち）	発生量：平年並
紋枯病	発生量：やや少ない
稻こうじ病	発生量：平年並
斑点米カメムシ類	発生時期：やや早い 発生量：多

※6月24日発行「発生予報情報第3号」、7月7日発行「防除情報第2号」より抜粋

- 葉いもち：ほ場をよく見回り、発病が見られた際は速やかに茎葉散布剤で防除しましょう。上位葉での発病は穂いもちの重要な伝染源になるので注意しましょう。
- 穂いもち：水面施用剤による予防防除を実施する場合は、出穂期の予測に基づき使用時期（出穂 20～10 日前頃）を逸しないように注意しましょう。
- 紋枯病：高温下では、紋枯病が発生・拡大しやすくなります。前年に紋枯病が多発したほ場では穂揃期に茎葉散布剤を散布するなど、防除を徹底しましょう。特に条播の乾田直播栽培は紋枯病が拡大しやすいので注意しましょう。
- 稻こうじ病：窒素過多で発生が助長されるので追肥の際は注意しましょう。
- 斑点米カメムシ類：発生は早く、発生量が多い見込みです。斑点米カメムシ類の薬剤防除は穂揃期とその7～10日後の2回防除が基本です。多発の原因となるイヌホタルイやノビエが残草したほ場では、1回目の殺虫剤散布を出穂始期～穂揃期に早めましょう。クモヘリカメムシの多発地域では、穂揃期とその7日後の2回防除後にさらに追加防除を実施することで斑点米被害のリスクを低減できます。



写真1 紋枯病の病斑



写真2 クモヘリカメムシ

体長 15～17mm
体型は大型で細身
体色は緑色だが、
死後は黄褐色に変色する。



写真3 ホソハリカメムシ

体長 9～11mm
体色は黄褐色
前胸背の両角は側方に突出し、針状にとがる

（写真はいずれも宮城県病虫害防除所 HP より引用）

※主な病虫害の防除方法、防除時期の目安については稲作情報第5号を参照してください。

5 出穂前後の水管理 高温対策と節水を兼ねた飽水管理を

(1) 基本的な水管理

中干終了 → 間断かん水 → 浅水 → 間断かん水
 (幼穂形成期) (穂ばらみ期) (出穂・開花期) (登熟期)

(2) 出穂後高温時の水管理

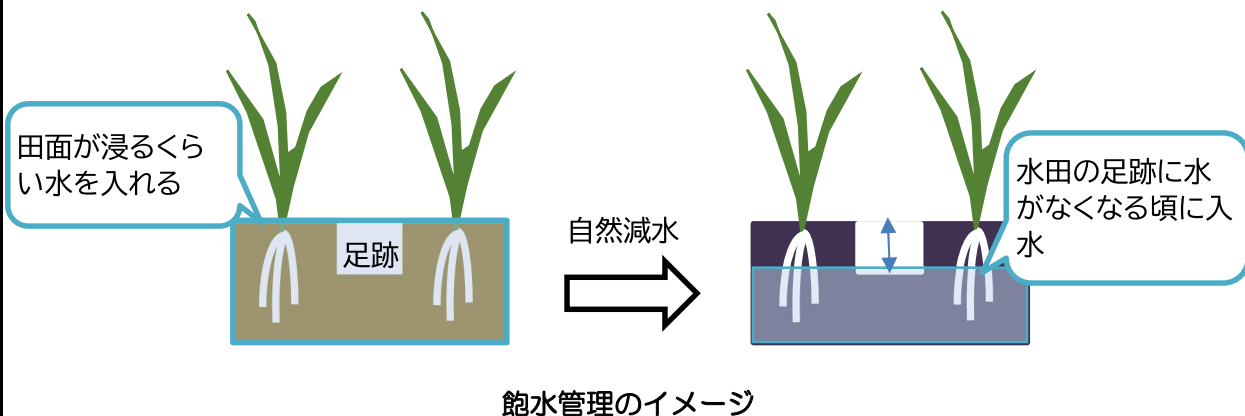
○走水等により土壌を常に湿潤状態に保つ飽水管理

出穂後の水管理を飽水管理で維持することによって、湛水管理に比べて乳白粒や胴割粒の発生が軽減できる。

★★★★宮城県米づくり推進本部*からのお知らせ★★★★

※県と関係団体で組織する「宮城米の評価向上及び市場が求める米づくり」を推進する組織です。

出穂後30日頃までは、限られた用水で「飽水管理」を行い、土壌を湿った状態に保ちましょう。「飽水管理」は、登熟期間が高温のとき、玄米の品質向上を図る技術としても有効です。



東北地方 1 か月予報 (7月18日から8月17日までの天候見通し)

令和8年7月16日 仙台管区气象台発表 ※抜粋

<予報のポイント>

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

<向こう1か月の天候>

期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

		低い(少ない)	平年並	高い(多い)
【気温】	東北地方	10	30	60
【降水量】	東北地方	30	40	30
【日照時間】	東北地方	30	40	50
<気温経過の各階級の確率(%)>		低い	平年並	高い
1 週 目	東北地方	10	10	80
2 週 目	東北地方	10	30	60
3～4週目	東北地方	20	30	50

◆◆◆◆◆◆◆◆農薬危害防止運動実施中（6月1日～8月31日）◆◆◆◆◆◆◆◆

農薬安全対策の不備や不注意等による事故が発生しやすくなるため、農薬使用による危害防止と環境に配慮した適正な農薬の使用を徹底しましょう。「使用前、周囲よく見て ラベル見て」

★★

古川農試に設置されている生育モニタリングほ場（「だて正夢」・「金のいぶき」・直播栽培）や県内全体の水稻生育情報はこちらからご覧いただけます。

<<https://www.pref.miyagi.jp/site/seikuzyoho/index.html>>

★★



「大崎地域の稲作技術情報」、「大崎地域の大豆作技術情報」、「大崎地域の麦作技術情報」は、当普及センターのホームページでもご覧いただけます。インターネットで「大崎農業改良普及センター」と検索または右のQRコードを読み取ってください。

